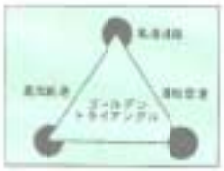
アクションプログラム③
"自立への挑戦" はいま！

掲点都市の目玉事業である通商産業省のオフィスアルカディア（南国オフィスパーク）事業が、南国市領石地区で進められています。

若者に魅力のある事務所、営業所、試験研究機関などのニュータウン『まほろばの里』を再現しようという計画です。今回は、その模様をご紹介します。

なんごく・こうち地方拠点都市



まほろばの里・アルカディア
南国オフィスパーク

▲――"アルカディア"とは"桃源郷・理想郷"といわれていますが、どんなニュータウンをイメージしていますか。

領石川両岸に広がる平坦地と丘陵地約二十㌶で、水辺空間（親水公園）を中心に緑に囲まれた快適な自然環境の街をつくろうとしています。

▲――製造業などの工場誘致でなく、若者に魅力のある事務所などを誘致して"オフィス街"をつくるのですか。

事務所、営業所、試験研究機関などの誘致です。職種は若者に人気のあるデザイン、コンサルタント、情報、通信、商品開発、バイオ、ソフトウエア、研究所などの"頭脳産業"を考えています。すでに昨年五月、全国のトップ企業二十二社で『地域小委員会』を発足させて企業誘致などに取り組んでいます。

若者流出の"人口ダム"
"桃源郷"のオフィス街

▲――四国横断自動車道の南国インターの近くで、交通の便も最高ですね。

地域振興整備公団（東京）の工藤敦夫総裁も「空港や高速道路、建設中の高知新港などに近く、公団が行っている三カ所の中でも一番いい。全国のモデルとなる"アルカディア"にしたい」と太鼓判を押しています。

▲――全国でも注目されているわけですね。公団・県・市は、どんな役割り分担で事業を進めていくのですか。

通産省の事業採択を受けて公団が事業主体になって用地取得、造成、企業への分譲を行います。この場合、用地取得は市の土地開発公社が代行します。また、幹線道路や公園などは市が事業主体になります。県は"県勢浮揚、産業振興"の立場から、企業誘致や事業実施で公団・市と一体になって進めていきます。

▲――総事業費は約七十八億円という大きな事業のようですが、その内訳は……。

約五十九億円のうち、公団の行う土地造成費が約三十六億円、県・市の行う関連公共事業（道路、公園など）約二十三億円。そして中核施設が約十九億円です。公団は四月一日、造成工事などに着手するため「高知開発所」を開設。中核施設を運営していく株式会社「南国オフィスパークセンター」も四月十九日設立されました。

▲――"緑に囲まれたオフィス街"といわれていますが、団地内の土地利用は……。

総面積二〇・二㌶の約六二㌫に当る一二・五㌶が分譲用地です。残り、公園一・〇㌶、道路二・七㌶、緑地など三・二㌶、調整地など〇・八となっています。分譲用地は二十四区画、一区画平均五〇㌃でかなり大きくなりまので、"緑に囲まれたオフィス"という感じです。

▲――中核施設・南国オフィスパークセンターとは……。

領石川南岸の約一・四㌶の公園の中に床面積五二一一平方㍍のセンターを建設します。約十九億円のうち、三分の一の六億円を公団が負担し、残りを県・市・民間企業・NTT無利子融資などをあてます。このセンターは、進出企業を支援する施設で、展示室、会議室、デザイン工房、情報提供施設、宿泊施設などを計画しています。

▲――領石地区を中心にした中山間地域の活性化、県勢浮揚の"切り札"といったところですね。

若者に魅力がある"働く場"をつくることによって県外流出の"人口ダム"的な役割りが期待され、試算では二千人程度の雇用が見込まれます。また、"頭脳企業"の立地で県産業へのインパクトは大きく新しい産業を育くんでいく"苗床機能"も期待されます。税収の試算では固定資産税（土地、建物で一億円以上）、市民税、法人税などで相当額が見込まれます。

《次回は後免町再開発を中心とした『ザ・ごめんパワーアップ事業』をご紹介します》